

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

## 研究協力のお願ひ

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した偶発性胆嚢癌症例における術中胆汁露出因子の影響評価

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2000年1月1日から2017年12月31日までに腹腔鏡下胆嚢摘出術後に偶発性胆嚢癌と診断された方

### 2. 研究目的・方法

目的および方法：腹腔鏡下胆嚢摘出術は胆嚢炎・胆嚢腺筋腫症に対し幅広く適用され、定型的な術式として認知されています。一方で、術前に胆嚢炎の診断に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行し、永久病理診断で偶発的に胆嚢癌の診断に至る症例（偶発性胆嚢癌）が存在し、その頻度は0.2～2.1%と報告されています。偶発性胆嚢癌は胆嚢癌治療における臨床上的問題点と提起されていますが、近年の診断技術の発達においても術前画像診断能の限界から、胆嚢の炎症性変化や黄色肉芽腫性胆嚢炎・胆嚢腺筋腫症などの併存により良悪性の鑑別に苦慮することがあります。また胆嚢特有の解剖学的構造から生検による確定診断を得ることは困難なことが多い状況です。偶発性胆嚢癌の問題点は前述の如くその術前診断の困難さが挙げられ、初回手術における至適術式の選択を誤る可能性が存在します。

永久病理診断で偶発性胆嚢癌の術後診断がなされた症例に対して、その病理学的所見によるstage分類に準じT2以上の症例に対し肝切除・リンパ節郭清を含めた追加切除を施行する事が予後改善に寄与する事がこれまで解明されており、コンセンサスを得られた治療計画として推奨されています。一方で、偶発性胆嚢癌に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した際に胆汁が腹腔内に露出された症例に対する追加切除の有用性やその長期予後は依然として不明です。

今回、偶発性胆嚢癌の臨床学的特徴や治療計画の妥当性・腹腔鏡下胆嚢摘出術施行時の胆汁露出と長期予後の関与をさらに詳細に解明するべく後ろ向き症例集積を立案しました。本研究では、偶発性胆嚢癌の手術症例において、短期成績および長期予後を診療録より後方視的に検討し評価することを目的とします。

### 研究期間

「医学部 人を対象とする研究等に関する倫理委員会」承認後、昭和大学医学部長 昭和大学病院 病院長の研究実施許可を得てから2019年12月31日まで

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：

**術前因子**

- ・ 年齢
- ・ 性別
- ・ 観察開始日
- ・ 術前診断（胆嚢炎、胆嚢腺筋腫症、その他）
- ・ 実施画像検査（腹部超音波検査（US）、コンピューター断層撮影法（CT）、磁気共鳴断層撮影法（MRI）、超音波内視鏡検査（EUS））
- ・ 画像所見

**術中因子**

- ・ 手術日
- ・ 施行術式（腹腔鏡下胆嚢摘出術の術中開腹移行の有無）
- ・ 胆汁露出の有無

**病理組織診断**

- ・ 診断名
- ・ TNM 分類
- ・ 腫瘍遺残の有無

**予後**

- ・ 生存の有無
- ・ 最終生存確認日
- ・ 再発の有無と再発形式
- ・ ・再発確認日

**4. お問い合わせ先**

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学 消化器・一般外科学教室 氏名：古泉友丈

住所：東京都品川区旗の台1丁目5-8 昭和大学病院 消化器・一般外科学教室

研究責任者：

所属	職名	氏名
昭和大学 消化器・一般外科学教室	講師	古泉友丈
電話番号 03-3784-8541		
E-mail: t-koiz@med.showa-u.ac.jp		